

財政赤字の問題点

財政赤字の拡大（公債発行の増加・債務残高の増大）



公的サービスの水準の低下

- 国債の支払いが増加し、政策経費が圧迫されると、社会保障、文教、防衛、インフラ整備など国民生活に必要な公的サービスの水準が低下。また、災害や経済危機等に対して、政府が本来果たすべき財政機能を発揮することができなくなる。

世代間の不公平

- 現役世代が受益（高齢者の年金、医療、介護等）した結果残された債務は、将来世代に付け回される。将来世代では、膨大な債務を償還するために給付の減少や負担の増加につながる。
- 受益と負担のアンバランスを現状のまま維持すれば、世界に冠たる国民皆保険・皆年金の維持、次世代への引渡しが困難となる。

民間部門の経済活力の低下

- 政府財政への信認が低下し、国債が格下げされた場合には、銀行等の社債が格下げとなり、社債発行による資金調達コストの上昇が懸念される。
- 政府が赤字国債の発行を通じて民間資金を吸収し続けることにより、成長のための資金が民間にまわらず、民間部門の経済活力の低下がもたらされる。

財政への信認低下による金利上昇

- 債務残高の増大により政府財政への信認が損なわれることとなれば、金利が上昇し、利払費が膨らむとともに、経済に悪影響。
- また、その場合、円滑な借入れが困難となり、企業や家計の資金調達等にも悪影響が及ぶとともに、国債を大量に保有する金融機関に含み損が生じ、金融システムが不安定化。
- 政府財政への信認低下がさらに進めば、金利上昇に留まらず、国債の買い手がいなくなり政府の資金調達が困難となる。